

研修報告書 No.15

所 属： 国立国際医療研究センター病院
氏 名： 井熊 玲央
研修先： 大月病院

私は今回、高知県幡多郡大月町にある大月病院で 4 週間の地域医療研修を受けさせていただきました。結果から言うと非常に有意義で学びのある研修とすることができました。

そもそも、私は地域医療とは地域に根ざした健康サービスを提供することを目的とした医療分野であると認識しています。患者さんが居住する地域に近い場所で医療サービスを受けられることにより、患者さんのアクセス性が向上し、健康状態の改善に寄与できるのではないかと考えています。そういった観点から考えると、大月病院は人口 4600 人の幡多郡大月町にある唯一の病院であり、大月町の人々にとって日常診療から救急医療までの全てを提供する場所です。

実際に研修を通して、大月病院の先生方が日々の外来で高血圧や脂質異常症、糖尿病等の common diseases を数多く診療されているのを拝見しました。その中で、ただ医学的プロブレムにのみ対処するのではなく、患者さんの生活背景や職業、周囲の人とのかかわりまで考慮しながら診療を行っていることを知りました。他方で、大月町唯一の病院であり、多くのほとんどの救急疾患の first touch を担当しなければならないのもまた大月病院の役割でした。大病院と比べて、どうしても医療資源的な制約はありますが、その中で如何に素早く、かつ的確に診断するかを重視されているのを感じました。結果に応じて、その場での治療や入院以外にも、より高次の医療機関への転院が必要な患者さんもいらっしゃるの、自病院で完結させられる施設と比べて、より素早さが求められることを学びました。

さらに地域医療のもう一つ重要な点としては、病院までのアクセスが厳しい人への往診や訪問診療があることを学びました。私が研修に伺った時は 3 名の常勤医師がいらっしゃったのですが、それぞれが町内の地域を分割して担当しておられ、決められた日時に訪問診療を行っていました。訪問診療や往診自体が初めてだったのでとても興味がありましたが、病院で見る患者さんとは違ったアプローチが必要だったので最初はどう対応したら良いかわかりませんでした。しかし、一緒に訪問診療を行った医師や看護師の方々から丁寧などの様なポイントに注意すべきかや、診療の流れを教えて頂き次第に慣れていくことができました。在宅医療ではもちろん病を治すということも大事ではありますが、それ以上に医療を通して患者さんが、自分らしく生きていく手助けをするという点が最重要になると感じました。ほかにも施設への訪問診療では、入居者の健康管理や定期健診といった側面から施設で働く職員の腰痛の健康診断等の労働衛生まで幅広い医療行為を行っていることを知りました。

以上のようなことは私が普段働いている病院では経験しにくいものでした。今、私が働いているのは都内の 3 次救急病院なので重症例や診断困難な症例を見ることは多く非常に学びになる日々を過ごしています。しかし、本研修を通してプライマリーヘルスケアを学ぶことができました。高知県では、日本の多くの町村がそうであるように過疎地域や病院へのアクセスが難しい山間部の集落が点在していると聞きました。そのようなところに住む人々にアクセスしやすい環境で必要な医療を提供し、一次予防、二次予防を行うことが最重要であると感じます。高知県の医療制度はそういった地域に大月病院のような病院を設置することで上手く成り立っているのだと学びました。

私自身は来年度から総合診療科医として都内の病院で勤務する予定です。すべての医療分野で地域医療の考え方は大事ですが、特に総合診療では生物学的アプローチのほかに社会的・心理的アプローチも含め全人的に患者さんを診療することが求められています。この 4 週間の研修では実際にそういった全人的アプローチを実践されている医療者の方々から指導を受けることで大変勉強になりました。